

青森県の留学生広報 **あそさ** 第22号

発行：青森県留学生交流推進協議会(ASOSA：The Association of Supporting Organizations for students from Abroad in Aomori)



青森県留学生交流ジャンボリー(ミルク工房ボン・サーブ)

留学生の声

Int'l Student's Voices.

トピックス

Topics.

留学生交流行事

Int'l Exchange Events.

留学生関連資料

Archives.

関係機関リンク

Link.

お問合せ

Contact.

巻頭言

八戸工業大学
学長

藤田成隆

寄稿

青森大学
学長

末永洋一

団体紹介

青森県地域婦人団体連合会
副会長

長内幸子

青森県留学生交流推進協議会(ASOSA)

The Association of Supporting Organizations for students from Abroad in Aomori

発行：青森県留学生交流推進協議会
〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学 学務部留学生課
TEL 0172-39-3109 FAX 0172-39-3133

巻頭言

国際交流は未来を拓く

八戸工業大学 学長 藤 田 成 隆



人材・情報・企業・経済の流動性が高まり、グローバル化が進む国際社会において、各国が非常に厳しい国際競争にさらされているが、その一方で、それぞれの国は相互に協力することが必要である。世界の政治・経済の安定を意識しながらも、将来にわたって国の成長と社会の発展を維持していくためには、それを支える不断のイノベーションが源泉と考えられる。従って、グローバル化した国際社会で活躍できる人材の育成が必要であり、同時に相互に理解を深められる国際交流も重要である。その際の礎となるのは学生同士の国際交流だと思う。2010年に閣議決定された「新成長戦略」では、2020年までの目標として、留学生の受入れを30万人にすることを目指している。県内への留学生数は2011年5月1日現在で427名であり、全国の留学生数の数%程度で多くはないが、様々な形で活発に交流が行われていることは、将来の青森県を考えた場合好ましいことである。

さて、本学における海外との交流に関して紹介すると、現在中国の2大学および米国の1大学と学術交流協定を結んでおり、特に中国の大学との交流が活発である。本学大学院工学研究科博士後期課程への留学生の受入れ、教員による相互訪問と学術講演、中国の大学での中国語研修などの事業を行なっている。さらに、お互いの大学がそれらの事業を実施するために全面的な経済支援を行っている。本学大学院を修了して「博士(工学)」の学位を取得した留学生は合計7名になり、現在も大学院に1名在籍している。専門分野の知識・技術を修得し、さらに日本文化を理解しながら日本語も身につけ、その多くはそれぞれの母校へ戻った。現在は、学院長、センター長あるいは教授として大変活躍しており、日本と中国の学術交流面での果たす役割は大きい。学術交流の中で人材育成事業を実施してきたことの成果に触れ、その意義の重要性をあらためて感じている。開学時からこれまでに受け入れた研究生を含む留学生は、5カ国から50名程度であり、現在2カ国2大学との学術交流協定締結に向けて準備している。

今から30年以上も前の話であるが、研究発表のため初めて渡米した際、米国内の移動で予定していた飛行機がストのため飛ばなかったことを始めとして、様々な場面に遭遇した。国際シンポジウムでは多くの研究者・技術者と知り合いになり、後にそれが縁で米国の大学から客員研究員として招聘された。在米中、大学の教職員、企業の技術者、大学院生の家族、地元の記者との交流を通じて、米国の文化を理解できたような気がした。現在の国際交流推進の基本的な考えは、米国で生活したことがそのベースの一つになっている。

留学生には、各自の留学目的達成を第一義としながらも、その他に県民との交流や社会貢献活動を通して、異文化の相互理解や人的ネットワークの形成に努めて欲しいし、さらに国同士のかけ橋として活躍することを期待したい。

寄稿

留学生問題を考える

—我が大学の反省を踏まえて—

青森大学 学長 末 永 洋 一



2008年1月、政府は、2020年までに留学生受け入れ数を30万人にする「留学生30万人計画」を発表した。この計画は、グローバル化が急速に進展していることを受け、わが国の企業等においても国際的な視点と知識をもった人材の確保が必要となってきたことが最大の要因であろう。1983年にも「留学生10万人計画」もあったが、これは、当時進行していた国際交流、国際協力、相互の文化交流と理解の深化、さらにはアジア諸国の国々がわが国の進んだ文化を理解する一助として計画されたものであり、今日の「30万人計画」とは背景を異にしたものであった。今回の計画はわが国の経済・産業界から要請が強かったとも理解できる。こうしたこともあって、政府はこの目的の達成のために各種の助成・補助制度を打ち出している。しかし、全国的にみて、こうした背景を認識した上で留学生を受け入れている大学等ほどの程度あるのだろうか。特に学生数の減少で悩む私大などではである。

いずれにしろ、政府はこの目的達成のために各種の補助制度や助成制度を一定程度実施してきている。しかし、問題は、実際の受け入れ側であるわが国の大学・短大・専門学校等の受け入れ体制が整っているか否かである。すなわち、こうした受け入れ側が、独自の奨学制度や学生納付金の減免措置を講じているか、留学生を対象とした比較的安価な寮やアパートなどの住居を提供することができるか、日本語の学習支援体制を備えているか、さらには、留学生を送っていくことのできる経済的、精神的、人格的なサポートシステムと日常的な支援体制を整備しているか、などである。それとともに、入学前におけるチェック体制も必要であろう。

本学も、ここ3年ほどは極めて少数しか受け入れていないが、それ以前においては、かなりの数の留学生を受け入れてきた。しかし、周知のように、そのことが、一連の「不祥事」を引き起こすこととなった。もちろん、マスコミが言う「偽装留学」を手助したのでは断じてない。しかし、受け入れ体制、特に、留学生に対する総合的な支援体制が極めて弱かったことは確かである。本学に留学してきた多くの学生は「黄金の国・ジパング」を夢見、日本に留学すれば「何とかなる」との淡い幻想をもってやってきた。しかし、中国、特に彼らの出身地域に比べて10数倍の物価高であり、アルバイト先も見つからない状況であり（大学としてはアルバイト先の開拓と斡旋は行ったが、絶対数が足りなかった）、そのことが彼らをして容易にかつ有利なアルバイトが見つかる地へと移動し、大学へ出席しない状況となったのである（もっとも、こう言えば、マスコミは「責任逃れ」と批判するのだが）。もちろん、今日までしっかりと勉学に励んでいる多くの留学生も本学にはいる。

留学生を受け入れている県内の他大学等の状況について私は何らの知見を持たない。言えることは、少子化や経済不況などの結果である学生数の減少を留学生の受け入れによって補うことは断じてあってはならないことである。その「苦痛」と「打撃」はもはや味わうべきことではない。

団体紹介

青森県地域婦人団体連合会(県地婦連)

副会長 長内幸子



県地婦連は昭和 31 年に産声をあげました。結成されて 55 年、多くの会員に育てられ今があります。昭和 40 年に青森県婦人会館ができ、拠点を得た婦人会は多くの活動を展開し始めました。生活の簡素化運動、県産品愛用運動、高齢者 110 番など、現在の課題を先取りした高齢者の在宅福祉や地域福祉のあり方を考える活動をしました。このような活動を支える為に「あすなろ貯金」を全県的に展開し、青森方式のユニークな取組みとして大蔵大臣表彰を受賞しました。現在は、会員 6,000 人と少なくなりましたが、向井麗子会長のもとで「学習する婦人会」を合言葉に新しい息吹を吹き込んだ密度の濃い地域活動をしています。

◎平成 23 年度活動方針

高齢化、少子化、情報化、国際化が進む中で男女共同参画社会の実現を目指し、豊かな地域づくりと女性の地位向上のための学習を進め実践の輪を拡げる。

◎重点目標

- ・明るく心豊かな家庭づくりを進め、地域の青少年を健全に育てよう。
- ・子ども達に本を読む習慣をつけさせよう。
- ・高齢化社会に備え生涯学習・地域ボランティア活動を進めよう。
- ・経済の活性化を図り、県産品愛用運動を進めよう。
- ・心ある冠婚葬祭の簡素化を進めよう。
- ・もったいない運動を推進しよう。

◎事業

- ・幹部研修会
- ・第 32 回婦人研修大会
- ・地域の女性育成研修会(県内 6 地区で開催)
- ・父の日の事業
- ・広報活動
- ・その他の関連事業いろいろ



昨年の 9 月 14・15 日に第 48 回北海道・東北ブロック地域婦人団体研究大会を開催「もったいない」をテーマに講演会や分科会を 1,200 名の参加を得て盛大に開催されました。現代的課題である物と生命とエネルギーの大切さを研究討議し、大きな成果を得ました。振り返ってみますと婦人会は戦前から「愛国婦人会」「国防婦人会」「大日本婦人会」と名称を変えながら、国や軍の要請を受けて活動してきたという経緯があります。結集力の強かった婦人会は、戦後の国づくりを目指して再度立ち上がりました。物資不足、医療難民、教育等々夫人の力なしでは解決できない社会問題解決の為に全国的組織で取り組みました。

現在の県地婦連は社会教育団体として、自らの企画運営で地域住民に合った安全・安心な地域づくり、魅力ある地域づくりを目指して活動しています。

今後もそうありたいと願っています。

青森県の留学生広報 **あそさ** 第22号

発行：青森県留学生交流推進協議会(ASOSA：The Association of Supporting Organizations for students from Abroad in Aomori)

広報あそさ 目次

Index of ASOSA.

●広報あそさ 表紙

巻頭言
寄稿
団体紹介

●広報あそさ 目次

●留学生の声

ラオ ペイ ベイ(青森中央学院大学)
グエン・ホアイ・アン(青森中央学院大学)
李建喜(青森公立大学)
金叶竹(弘前大学)
ラオグドルジ・ツァガンサナー(弘前大学)
スカンヤ・ファリタクル(北里大学大学院獣医畜産学研究)
李午龙(八戸工業大学)
高慧芳(青森大学)
金寧(青森大学)

●トピックス

第18回青森県留学生交流ジャンボリー
桔梗野町会夏祭り

●留学生交流行事

●留学生関連資料

外国人留学生の受入れ状況

文部科学省ページ⇒  **文部科学省**

「我が国の留学生制度の概要」平成21年度版.pdfを参照ください。

青森県内高等教育機関における外国人留学生在籍状況

●関係機関リンク

●お問い合わせ

●青森県留学生交流推進協議会事務局

●青森県留学生交流推進協議会(ASOSA)会議等報告

平成23年度会議等報告
委員名簿
協議会要項
協議会申し合せ事項

「心の繋がり」

青森中央学院大学 経営法学部 4年



ラオ ペイ ベイ (マレーシア)

光陰矢のごとし。四年間の日本の留生活があつという間に過ぎてしまいました。この四年間は長いようで短い時間でしたが、日本や日本文化について学ぶことができ、またいろんな人と出会い、いろんなことを体験し、これからの長い人生にとって、素晴らしい経験と思います。

青森中央学院大学は留学生が多く、アジア、アフリカ、ヨーロッパなど世界各地からの留学生が学びに来ていました。いろんな国のいろんな考え方をを持った人々と接する機会が多く、とても面白いです。そして、個々の国の文化や価値観の違い、また育ってきた環境の違いなどで皆それぞれ異なった考えを持っていて、非常に興味深かったです。私にいつでもインターナショナルな空間を好きにさせました。

生活費の高い日本での留生活は、私達にとって、確かにそんな甘いものではありませんでした。私がここまで辿りつけたのは、私一人の努力だけではありません。先生のご鞭撻、家族の理解、日本の皆さんの応援があったからこそ自分の今日があると思っています。それから、大学の先生方も留学生である私達のことを配慮し、日本語の表現から内容まで細かくレポートの指導を行ってくださいました。

この四年間では、私の物事に対する思考、生活態度や将来の生き方などのあらゆる方面において多大な影響を与え、素晴らしい体験となりました。日本の留生活を通して、語学だけではなく、それ以外にもたくさんを学び、感じることができました。一番学んだのは、「自分のことで他人に迷惑をかけない」ということでした。それから、日本人のマナーの素晴らしさや清潔さ、綺麗な青空、ごみが一つも落ちていないことにも気づきました。

一昨年、大学の勉強に集中していたため、アルバイトをする暇もなく、経済的に困難な状況に直面していた私に、ロータリー米山奨学会が支援の手を差し伸べてくださいました。それは経済面の支援ばかりだけでなく、精神面でも大きな支えとなりました。またそれは、やがて文化の相互理解にも繋がって、大学の講義とは180度違った方向から国際交流や異文化理解を学ぶことができました。

それから、大学でも多くの活動があつて、日本人と私達が一緒に活動できるように、課外活動を豊かにして、私達の日本語のレベルの向上に気を遣っていただきました。日本人と交流しながらお互いの感情が深くなるのが感じられました。

日本に留学することが私にとって人生の転換点だと言えるでしょう。収穫の多い四年間であると同時に、感慨の深い四年間でした。日本にいた四年間は、喜びもあり涙もあり、寂しさもあり激情もありましたが、今振り返ればそれら全ては感動でした。日本に対する感情で、今は胸がいっぱいです！日本でのいろいろな出来事を思い出す度に、日本が私の第二の母国だという気がします。

日本の先生方、友達などいろいろな人と出会えてよかったです。この四年間で、私は大きく成長したと思います。将来自分が帰国し、日本とマレーシアの文化交流のために貢献し、日本の皆さんに恩返ししたいと思っています。

「どさーゆさ」

青森中央学院大学 経営法学部 4年



グエン・ホアイ・アン(ベトナム)

今年の8月に私は四日間ホームステイに参加しました。ホームステイの家族は親切に私を迎えてくれて、色々な日本人の文化を教えてくれ、私には素敵な思い出となりました。その中でも青森弁を初めて学んだ事は印象的でした。ある日、私は出かける時、お祖母さんは親切な声で「どさ？」と尋ねました。「どさ」という言葉の意味を辞書で調べたところ、「どさ」は土と砂という意味が出てきました。ああ、たぶん地震がよく起こるので、日本人は土砂崩れが起こるのをいつも心配しているかなと思いました。でも、実はそうではありませんでした。「どさ」は土と砂という意味じゃなくて、青森弁で「あなたはどこへ行くんですか」だよとお父さんは教えてくれました。だから「どさ」と「ゆさ」という会話はよく耳にしています。「どこへ行くんですか」と「銭湯に行くところです」という意味です。「へえ～そうなんだあ～」と思いながら、私は驚きを隠せず聞いていました。それはなかなか面白いと思っています。

青森弁は、話すスピードもすごく速いし、一文字の会話もよく使われていました。例えば、「まんじ、は、どってんしたじゃ」というのは「どうも、実に、びっくりしたよ」で、【A】「かな、け。」【B】「く。め。」というの【A】「ほら、あなた、食べなさい。」【B】「食べます。おいしいです」を意味します。最初それを聞いて、ぜんぜん分かりませんでした。青森弁が理解できるために、新しい単語をたくさん勉強しなければなりません。例えば、「冷たい」は「ひやっこい」、「ご飯」は「まんま」、「疲れる」は「こい」、「うるさい」は「さしね」などです。ホームステイのお父さんに「なぜ、青森人は早くて、短く話しますか」と聞きました。「たぶん青森では冬になると雪が降り、とても寒いので短くして早くしゃべらないと口の中に雪が積もってしまう」とニコニコしながら冗談を言いました。

実は、日本に来る前、東京にある大学を選んだほうがいいではないかとアドバイスしてくれた人もいました。こう言ったのは、青森の冬が厳しいとか、青森は大都市のように発展しているところではないとかという理由ではなく、標準語の代わりに、青森弁をよく使うという事を心配してくれたわけです。青森の人はよく青森弁を使うというのは事実だということに来てから実感できました。でも、私にとって、その方言のおかげで、もう一つの日本の文化と日本人の心が理解できたような気がします。普段の生活の中でほとんど標準語しか使わない東京に住むと、例えば実際日本人は何かを否定する場合、「いいえ」という言葉だけではなく、「なんも、なんも」という言葉も同じ意味で使われることは、たぶん分からないでしょう。ここに住んでいることで、毎日新しい言葉を学び、新しいアクセントを耳にして、日本語の豊富さが分かることができ、本当に楽しくて、面白いと感じています。今、私の心の中にある青森という所はただテキストに載せたように有名な弘前公園がある所とか、盛り上がるねぶた祭りがある所だけではなく、親切な青森の人と面白い青森弁という印象も深く与えられました。青森弁を学ぶことで、青森の文化、そして青森の人の習慣もより理解できるし、留学する意味もより深く感じられます。ですから、青森を選んだことは正解だと思っています。

もし、もう一度選択することができたら、私はきっとまた青森を選びます。青森を本当にありがとう!!!

大学生活について

青森公立大学 経営経済学部 経営学科 1年



李 建喜 (韓国)

私が、日本で留学生活をして六か月が経ちました。初めは、日本の生活に慣れずに戸惑うこともたくさんありましたが、今では家や学校での生活に慣れてきました。もちろん、ひとりで生活することや、学校での友人関係についても心配はありましたが、一番不安だったのは大学の勉強の事です。授業はすべて日本語で行われるので、韓国出身の私がついていくことができるのだろうかという思いでいっぱいでした。さらに、他国からの留学生が私ひとりだったということも不安の一因でした。でも、学校の先輩や友人などに優しい言葉で励まされたおかげで、四年間の大学生活を続けていくことに自信ができました。春学期の授業をもっと頑張れたらよかったということが反省点なので、秋学期はもっと授業に力を入れてよい一年を送りたいと思います。

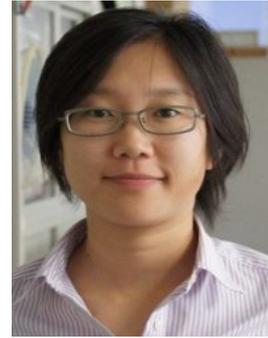
私が、日本の大学に留学しようと考えたのは、日本の学生は韓国の学生よりも楽しい大学生活を送っていると思ったからです。確かに不安もありましたが、新しく待っている生活に対する喜びのほうが大きかったです。なぜなら、サークルや人との交流を通じて、広い視野をもった人に成長できると考えたからです。大学に入学して一番興味を持ったのは、サークルの活動でした。韓国では、高校生の時まで勉強が中心で、サークルなどの活動をほとんどしないので、いつも日本ドラマを見たときにやってみたいと思っていました。だから、大学でサークル活動をできてよかったと思います。私は今、国際交流サークルと韓国語サークルに所属しています。国際交流サークルは一年に数回、他の大学の留学生たちとの交流パーティーがあるのでそれに関心をもって入りました。同じ場所で様々な外国人と話したり、遊んだりするのは今までになかったことなので、とても思い出に残っています。私の将来の夢は、海外の人たちと交流をもつことなので、とても有意義な時間だと思います。だから、次に行われるパーティーも楽しみです。韓国語サークルでは、大学の七夕祭りのときに冷麺を販売しました。自分が思っていたよりも反応が良くてたくさん売れたので嬉しかったです。これがきっかけで韓国の食文化について知ってもらえたと思うので良かったです。

私の将来の夢は通訳者です。様々な国の人々と話したり、仕事を一緒にできるようになりたいのでサークルでの体験を含めた日本の大学での生活の経験は、将来的にもとても役立つと思います。これからも、勉強を頑張って大学生活を楽しんでいきたいです。

「私の日本留学生生活」

弘前大学 人文社会科学研究科 2年

金 叶竹 (中国)



私は、中国東北の黒竜江省からきた。日本に来たきっかけは、うちの延辺大学と弘前大学との交換留学制度を保つことによって、2007年の4月大学三年生の時に、私は交換留学生として、初めて来日した。約一年間弘前大学に勉強していた。その間、日本語の勉強はもちろん、それ以外にもまた日本社会に触れ、とくに桜祭り、ねぶた祭りといった津軽地域の伝統的祭りに参加して、私の日本、とくに地方都市への関心が一層深まったのである。

留学の体験を基に、大卒後、さらに日本社会、特に地域社会を深く理解するため、2008年8月に、家族の強い反対にもかかわらず、弘前大学の研究生として再来日した。約一年半をへて、2010年4月から、人文社会科学研究科の学生として正式に入学を果たした。

今年、ちょうど築城400周年を迎えた弘前は、ふつう、りんごと桜で広く知られている。しかし、かつて十万石のこの城下町を、今日のような味わい深い地方都市として変貌を遂げたのは、なんといってもその有形無形の豊かな文化遺産のお蔭だったといえよう。たとえば、弘前公園に近づく度に、いつもタイムスリップのような錯覚に囚われているような感じをしてならない。藩政時代に築造された弘前城をはじめとする和風建築、明治期の大変洒落た洋風建築や日本近代建築の巨匠だった前川國男(1905~1986)が手がけた新旧市役所の建物が優美にそびえ立っている。このように、新旧又は東西のスタイルが織り交ぜながら、際立った均衡美が保てられる地方都市は、実に興味深い。

その故、目下「明治の洋風建築と地方の近代化—弘前とその周辺を中心に—」と題する研究に精力的に取り組んでいる。本研究は、単なる近代建築そのものだけでなく、近代建築と地方の近代化との関わりの解明にも大変有意義な課題であり、また、地域の歴史的景観の再確認、さらに地域の観光産業にも大いに役立つものだといえる。

しかし、大学院生になって、経済力と研究に高度の集中力を必要とする肝腎な時、私は、幸運にもロータリー米山記念奨学会の奨学生として選ばれ、御蔭さまで、全力で研究に集中できるようになった。特に、3月11日に発生した大震災の後の大変な時期に、自分の国においても、ご支援を必要とする方々がいるのにもかかわらず、我々外国の留学生達に奨学金を一切変更なしに賜っている。まさに、「雪中に炭を送る」とでもいうべきである。

そして、私はロータリー米山奨学会の奉仕の精神、人との触合い、絆などを大切にしている精神をたくさん習っており、今後もこのような精神を多くの人々に広げて行きたいと思う。

日本留学を終えたら、可能であれば、しばらく日本で自分の語学力を生かして、日中関係の仕事をやってみたいと思う。その他に、政府や民間機関の国際交流関係の仕事をもやってみたいとも考えている。幸い、私は朝鮮族で、中国語、日本語、英語の他に、韓国語も自由に話せる。四ヶ国語の会話能力を身に付けていることは、とても役立つことで、一種の誇りでもある。私は人とのコミュニケーションが大好きで、将来的に、微力ながら国際交流の事業に役立つよう頑張りたいと思う。

貴重な留学生活

人文学部・現代社会課程3年

ラオグトルジ・ツァガンサナー



2009年2月24日の朝6時ごろ、乗っていたバスは弘前市内に入ってきたとたんバス中に青森県の紹介が流れ始めました。必死に聞いても日本語がよく分からない私は分かる言葉が出て来た瞬間にすごくうれしくなりニコニコしていました。その言葉は一空が青い、桜がきれい、リンゴが赤いでした。私の弘前での貴重な留学生活がこうやって始まりました。

その日からもう2年半経ちました。この間、モンゴル人である私を驚かせ、楽しませ、成長させたたくさんの出来事がありました。初めて自転車に乗ってみ、初めて生な魚を食べてみ、初めて一人暮らしをしてみ、初めて外国人の友達ができ、何であれ私にとって新しく全部初めての感じしてました。今は、弘前出身の人みたいに弘前をよく分かります。いづどこでどんな祭りが行われるからはじめ、どこでどんな店があるかまでも詳しいです。弘前大学の近くにすごくおいしいラーメン屋があります。そこで「ぶんぷくラーメン」を食べることが大好きで、何回ラーメンを食べたかを数え切れないうらいです。そこの店員さんはいつもニコニコしているからそこへ行くことが好きで、何か一杯元気をもらったような気がするのです。

私は、弘前大学で短期留学生ではなく学部生として勉強しています。日本人の学生と同じ授業をとり、一緒に勉強します。日本に来る前に国際社会に活躍できる人材になりたいと思い日本への留学を決めました。その決心は間違っただけでなかったことをここに来てから改めて分かりました。人はできれば母国を出てどこかへ行ってみれば、前に理解できなかったことや感じなかったことを経験し、新しい自分を見つめ、世界はどんなに広いかということを知ることが出来ます。私も同じです。日本に来て新しい自分と出会ったのです。特に大学の授業で色んなことを考え、理解できます。モンゴルにいたときは外国人と結婚すること、ハーフの人のことをよく理解できない人でした。ある授業で、これを再び考えさせる機会が出ました。先生は外国人と結婚した人で、もちろん子供はハーフです。その先生の話を知ると、私の考えはちょっと違っていたのだなと理解できました。

私の夢は世界を回り旅行することです。夢は叶うかどうかはよく分かりませんが、目標のためには頑張っています。私の目標はモンゴルの外務省に働くことです。そのため、卒業したら帰国する予定です。せっかく日本に留学したからここで得た知識や能力をモンゴルで活かしたいです。帰ってすぐ外務省に入ることはかなり難しいので、この目標を抱きながら、モンゴルのある会社に働いてほしいです。できれば日本と交流のある会社に勤めたいと思っています。卒業するまで後1年半です。やることはまだまだ一杯あります。取りあえず、まだ行ってない京都や北海道へ行き、まだ感じてない日本の魅力も感じながらたくさんの思い出を作り、最高で貴重な留学生活をすごしたいです。

日本人がどんどんわかってくる

北里大学大学院獣医畜産学研究科
博士課程 獣医学専攻 2年生



スカンヤ・ファリタクル (タイ)

日本への留学が決ったとき、私は非常にうれしく思いました。それは日本が子供のときから知っていた第一の国だったからです。40年以上前に日本に留学していた私の両親から国の様子を聞かされていたのです。ここに来て、自分のまわりの人から日本人の考え方とライフスタイルを教えられ、非常に感動しました。私の意見では、日本人は環境、季節や天然資源の重要性に関心が高く、花見、花火、秋まつり、ねぶた等のお祭りあるいはイベントを大切にしています。また、周りの人たちとの関係を重視しています。日本人は非常に規律をよく守り、個人より社会に焦点を当てて暮らしています。例えば、今年3月の地震、つなみ、そして Fukushima からの放射性物質の漏れに際して、その事実に変更で気付かされました。皆はパニックにならず恐ろしい事態を受け入れ、解決しようとしています。普通では、喪失感が大きいと思いますが、それを表に出さずに日々の生活を続けています。これらのことから、日本人はお互いに譲り合うことを忘れないのだと言うことを気付かされました。これらの事態を日本人の中において経験できたことは非常に貴重なものでした。この1年余の日本での生活で貴重なそして素晴らしい経験を支えてくれた各先生、友人、先輩や後輩に感謝しています。私は、日本で生活している1秒1秒の時間をこれからずっと忘れないと思っています。

留学と私

八戸工業大学

李 午 龙 (中国)



私は12歳で北京卓球チームに入り、無心に卓球に打ち込んでいました。私が所属した北京チームは世界的に有名で海外のチームとの交流が盛んに行われていました。外国の選手との交流を重ねるにつれ、外国への興味がわき留学をしたいと思う気持ちが次第に強くなって行きました。やがて、日本の高校から留学のお誘いを受けるに至り、卓球と勉強の両立を考えていた私は、その環境が整っている日本への留学を両親に希望し来日しました。

来日した頃は、言葉もよくわからず、文化の違いに戸惑う私に、日本人たちはとても親切にしてくれました。おかげで日本語も短時間で理解できるようになり周囲に溶け込むことができました。また、多くの友人を得ることができ卓球も勉強も一層頑張れるようになり、卓球では山形県代表として国体出場、東京選手権大会ジュニアの部でベスト16という成績を収めるなど充実した高校生活を送ることができました。

この頃から、大学へ進みたい、専門知識を身につけたい、卓球を続けたいという気持ちが強くなっていきました。大学進学には多額の費用が必要なため悩みましたが、両親や先生に相談の上、さらに八戸工業大学の蛭名監督の多大なるご支援のもと八戸工業大学に進学できることになりました。大学では、機械情報技術学科に入学し機械系の技術者になるべく勉強しております。大学の講義は難しく時には挫けそうになりましたが、仲間に助けられながら頑張ってきました。また卓球では、去年今年と2年連続で東北地区大学リーグ優勝シインカレにも出場することができました。このように頑張ってきたのもひとえに監督をはじめ多くの仲間や教職員の方々の支援のおかげだと感謝しています。その感謝の気持ちを大切に今の自分に何か出来ることはないか、役に立てることはないかと考え、監督に相談したところ子供たちに卓球を教えてみないかと提案されました。今は、週2回子供たちを指導しています。最初頃は指導することが中々上手くできなかつたのですが、今では楽しくなってきました。

今、私は大学生活最後の年を迎えエンジニアリング教育の改善というテーマで卒業研修に取り組みながら就職活動をしています。私は日本で職を得るつもりです。生れは中国ですが、育ててもらっているのは日本だという思いとまだまだやりたいことがあるからです。進路の選択には迷うところがありますが、卓球を続けられる環境の下頑張ってみようと思っています。

頑張ろう、東北！ 頑張ろう、日本！

青森大学 社会学部社会学科 3年



高 慧 芳 (中国)

はじめまして。私は高慧芳と申します。中国の河南省の出身で、日本の文化と技術を勉強するために日本へ来ました。私は幼い頃から日本のアニメを見たり、歌謡曲を聞いたりしていました。アニメや歌を通して日本のことを知れば知るほど日本が大好きになりました。長い間、ずっと憧れていた日本に留学することができて、本当に嬉しかったです。あっという間に時間が過ぎ、日本に来て3年目が終わろうとしています。今までの留学生生活を振り返ってみると、辛かったこともあれば、楽しかったこともありました。青森での生活は、私の人生に貴重な経験と大切な思い出を提供してくれました。

日本に来て、私が一番強く感じたのは、日本人の礼儀正しさです。どこに行っても「すみません」「ありがとうございます」という言葉をよく耳にするので、心がとても温かくなります。また、子供からお年寄りまで、知らない人に対しても「おはようございます」「こんにちは」と笑顔であいさつをしてくれます。日本にはあちこちに笑顔がいっぱい溢れていて、かわいい子供や優しいお年寄り、美しい女性、カッコいい男性がどこでも見られます。また、日本の施設や設備は充実していて、大変便利です。お店の人みんな笑顔で働いていて、客に対するサービスもすばらしく、とても居心地がいいです。天国みたいな日本は、私にとってまさにユートピアです。

しかし、今年3月11日に東日本でマグニチュード9の大地震が起きました。死亡者や行方不明者、けがを負った人、帰る家や仕事を失った人など、何十万人もの人が被災しました。そして、福島県では原子力発電所が爆発し、その周辺が放射性物質により汚染され、30キロ圏内の住民が故郷を追われました。目に見えない放射性物質への不安から、国民全体が精神的な苦しみや肉体的な苦しみを味わうことになりました。これは、まさに「雪上加霜」といえ、中国では災難の上に更によくないことが重なるときに使うことばです。特に、東北の人々は地震、原発、風評と何重もの苦しみを背負うことになってしまいました。

この時、私も青森にいて、生まれて初めて大きな地震を体験しました。本当にびっくりしました。空港には日本を離れようとする外国人が溢れて、混乱していたようですが、私は中国に帰りたいとは思いませんでした。なぜなら、青森にはお世話になっている先生や友達がいるし、このような困難を何とか一緒に乗り切りたいと思ったからです。しかし、ニュースを見た両親がすごく心配して、毎日泣きながら私に早く中国に戻ってほしいと電話をかけてきました。私は複雑な気持ちで、苦しかったです。

大変なことが次々と起こった日本ではありますが、国民と政府が協力し、世界各国からの応援や支援を受けながら、数々の試練を乗り越えつつあります。一日も早く被災者の方々が生まれ育った故郷に戻り、家族や親友と再会することを世界中のみんなが望んでいます。豊かな日本、親切な日本、きれいな日本、カッコいい日本、強固な日本、頑張ってください。力を合わせれば、必ず大震災に打ち勝ち、笑顔の日々を取り戻すことができると固く信じています。私もずっと応援しています。そして、これからもずっと日本のこと、東北のことを大好きでいたいと思います。

私の留学生活

青森大学経営学部 3年

金 寧 (中国)



中国の江蘇省揚州市から参りました金寧と申します。現在、青森大学経営学部の3年生に在籍し、経営戦略と販売管理に関する研究を行うと共に、英語や多文化共生などにも深く興味を持っています。

寒くて、暗く厳しい冬が終わりを告げ、ようやく到来した明るく美しい4月。春の訪れとともに、私は大学生として3年目を迎えました。今年の5月には、日中友好交流の活動に参加し、弘前公園へ桜を見に行きました。弘前の桜がきれいな理由は、青森ではりんごの木を育てるための技術が発達していて、それが桜の枝を切るのにも応用されているからだと聞きました。世界で一番おいしいりんごを作る人たちによって、守られている美しい桜の下で、日中両方の友達と一緒に食事をしながら、きれいな桜が見られて、とても嬉しかったです。また、この交流を通じ、様々な人々とコミュニケーションを図ることができ、充実した時間を過ごすことができました。

そして、7月には「留学生人材活用普及啓発セミナー」に参加しました。県内企業が留学生を対象に会社概要の紹介を行うものでした。企業紹介の後は、企業や講演された講師の方々と一緒に意見交換をしました。また、青森県の特産物で一番人気が出そうなものは何か、アジア地域に青森の特産物を輸出するならどのようなものがあるかについてグループに分かれて討論しました。青森の良さを再発見するとともに、企業の人々の話を直接聞くことができ、将来の就職や人生に役立てることができる素晴らしい機会になったと思います。

また、8月はとても充実していましたが、忙しい1ヶ月間だったと思います。2日に大学の期末試験がすべて終わり、すぐに青森ねぶた祭りに参加し、7日には青い海公園で花火を楽しみました。その後も夏休みを利用し、青森県内の旅行をしました。十和田湖、三内丸山、青森県立美術館、浅虫温泉など、いろいろなところへ行きました。一番思い出に残っているのは、浅虫温泉です。浅虫のお祭りにも参加し、浅虫でゆっくりとリフレッシュしました。青い空、青い海、そして浅虫の豊かな自然は生きる力があふれていました。食べ物も新鮮なものが多くて、特にホタテやさしみは最高でした。私の故郷の揚州市には海がないので、私は時間を忘れて、海を見続けていました。海を見ていると、心がゆったりしてきました。それから、生まれて初めて露天風呂に入り、ホテルのロビーで津軽三味線の演奏を聞くことができ、とても感動しました。伝統的な日本文化の雰囲気も感じることもできるとても贅沢な時間でした。

あっという間に、夏休みが終わり、本当に時間が足りないと強く感じています。今は新学期が始まったばかりなので、新しいことに挑戦しようと、いろいろと目標を立てているところです。今後も努力を重ねて、目標を一つ一つ果たしていきたいと思います。青森大学での留学生生活をさらに充実させるために、たくさんの人と出会い、知識を増やし、幅広い経験を積んでいきたいです。今まで私の留学生生活を支えてくださった皆様にこの場を借りて心から感謝を申し上げます。

第18回青森県留学生交流ジャンボリー開催

青森県留学生交流推進協議会及び財団法人青森県国際交流協会の共催による第18回青森県留学生交流ジャンボリーが、8月20日(土)、8月21日(日)の一泊二日で、下北地域において開催されました。

このジャンボリーは、県内高等教育機関に在籍する留学生が、青森の文化や習慣、自然に親しむとともに国際交流関係者や地域との交流を深めることによって、帰国後も青森県との親善の架け橋となってもらうことを目的に開催されているもので、今年度は当番校である青森中央学院大学が企画・運営を担当し、青森県下北地域県民局地域連携部地域支援室の全面的なご協力を得て、青森県内の留学生・日本人学生35名(弘前大学19名、青森中央学院大学13名、八戸工業高等専門学校3名)並びに国際交流関係者10名の合計45名が参加しました。

20日は、弘前、青森、八戸方面からバスでまず横浜町に向かい、NPO法人菜の花トラスト in 横浜町のご指導のもと、菜の花の種まき体験をしました。

同法人が無農薬で栽培した野菜などを使ったお弁当をいただいた後、むつ工業高等学校に移動し、生徒のみなさんと「下北地域の観光振興」について意見交換を行いました。

夕方には下北地域最大のお祭りで青森県の無形民族文化財に指定されている「田名部まつり」の運行場所に移り、昼間の「静」の練り歩きをする山車を見学しました。

夜は宿泊先であるむつ市下北自然の家において、在籍機関を問わず和やかな交流が行われました。

翌21日は、日本三大霊場の一つである恐山を散策しました。ガイドさんの案内で入山し、散策しながら、その信仰や昔からの言い伝えなどを熱心に聞くことができました。

その後、下北名産センターで昼食と買い物を済ませ、最後の体験地であるミルク工房ボン・サーブに向かいました。

ボン・サーブでは瓶に入った牛乳を20分程度懸命に振り続けて、バターを作るといふ体験に挑戦しました。早くできる人、時間がかかる人、様々でしたが、楽しみながら振り続け、最後には全員バターを完成させ、それをパンにつけて試食することができました。また、ボン・サーブ隣原牧場も見学し、乳牛への餌やり体験も行いました。

今回参加した留学生・日本人学生・研修員は、全行程を通して楽しい表情で積極的に参加していたので、留学生活の中の大きな思い出になったことでしょう。

[菜の花の種まき体験]



[恐山散策]



[むつ工業高校との意見交換]



[バター作り体験]



[田名部まつり見学]



[餌やり体験]



トピック

桔梗野町会夏祭り

8月20日に弘前大学国際交流会館において桔梗野町会夏祭りが開催されました。

例年弘前大学の学生も参加しておりますが、今回は中国人留学生有志による手作り餃子の出店がありました。来場者に大変好評で用意していた分が祭り終了前に無くなるほどの人気ぶりでした。売り上げの一部は東日本大震災への義援金にするとのことでした。

また、祭りの開会式ではフランスからの留学生2名による挨拶が行われました。昨年10月からの1年間の留学の間に地域住民から沢山の支援をいただいたことに対する感謝の旨を流暢な日本語で挨拶し、会場から拍手が贈られました。

参加者は盆踊り、また抽選会などを通して交流を深めておりました。今年は東日本大震災の影響で途中帰国した学生も何名かありましたが、先の中国人留学生による出店等、学生達も何らかの形で地震の復興に貢献したいという強い意志が感じられ、例年よりも一段と深い国際交流が行われた夏祭りとなりました。



←挨拶を行ったフランス人留学生

手作り餃子の出店を行った中国人留学生→



平成23年度留学生交流行事
(青森公立大学)

開催	交流行事名	主催	交流内容
6月	POTLUCK PARTY	青森公立大学 国際交流サークル	日本人学生と留学生、及び地域の方々との交流パーティーの開催
10月	POTLUCK PARTY	青森公立大学 国際交流サークル	日本人学生と留学生、及び地域の方々との交流パーティーの開催

平成23年度留学生交流行事
(弘前大学)

開催	交流行事名	主催	交流内容
4月	新入学留学生のためのガイダンス	弘前大学	学内外留学生生活の説明、指導
8月	弘前ねぶた祭り	弘前大学	夏祭りへの参加
	国際交流夏祭り	弘前市桔梗野町会	本学留学生と地域住民の交流
	青森県留学生交流ジャンボリー	青森県留学生交流推進協議会	留学生相互及び日本人学生、並びに国際交流関係者等の交流促進と青森県内の文化紹介
	外国人留学生研修修了証書授与式	弘前大学	9月修了留学生の授与式
10月	インターナショナルフェスタ	弘前大学	総合文化祭において各国留学生から自国紹介を行う
12月	国際交流・餅つきフェスティバル	弘前市桔梗野町会	本学留学生と地域住民の交流
2月	外国人留学生研修修了証書授与式	弘前大学	3月修了留学生の授与式
	外国人留学生卒業・修了懇談会	弘前大学	国際交流関係者等による送別会

平成23年度留学生交流行事
(八戸工業大学)

開催	交流行事名	主催	交流内容
4月	ガイダンス	八戸工業大学	学生生活全般の説明及び指導
5月	体育祭	八戸工業大学	
7月	就職懇談会	八戸工業大学	3年生及び4年制への就職支援及び指導
10月	学園祭	八戸工業大学	
	留学生に対する安全講習会	八戸工業大学	八戸警察署の協力のもと、事件事故を未然に防ぐための心得及び震災や事件事故に遭った時の対処の仕方についての講習会
12月	避難訓練	八戸工業大学	全学挙げての避難及び初期消火訓練・AEDの動作訓練
3月	学位記授与式・謝恩会	八戸工業大学	学位記の授与と学科毎に行われる謝恩会

平成23年度留学生交流行事
(青森大学)

開催	交流行事名	主催	交流内容
4月	留学生ガイダンス	青森大学	留学生生活および履修説明
6月	グローバルパーティー&ランチ教室	青森県ユネスコ協会 みんなの応援隊ネットワーク	留学生と地域の方々との交流
7月	フレンドシップ交流会&日本文化体験	青森大学	青森市国際交流ボランティア協会から講師を招き、伝統的な日本文化を体験。
8月	青森ねぶた祭り	青森大学	夏祭りへの参加
	青森県留学生交流ジャンボリー	青森県留学生交流推進協議会	留学生および日本人学生の交流等
10月	学生祭	青森大学	留学生交流サークルによる出店
11月	外国人日本語スピーチコンテスト	青森市国際交流ボランティア協会	日本語による弁論大会出場
	グローバルパーティー&ランチ教室	青森県ユネスコ協会 みんなの応援隊ネットワーク	留学生と地域の方々との交流
3月	学位記授与式・謝恩会	青森大学	学位記の授与および謝恩会

平成23年度留学生交流行事
(青森中央学院大学)

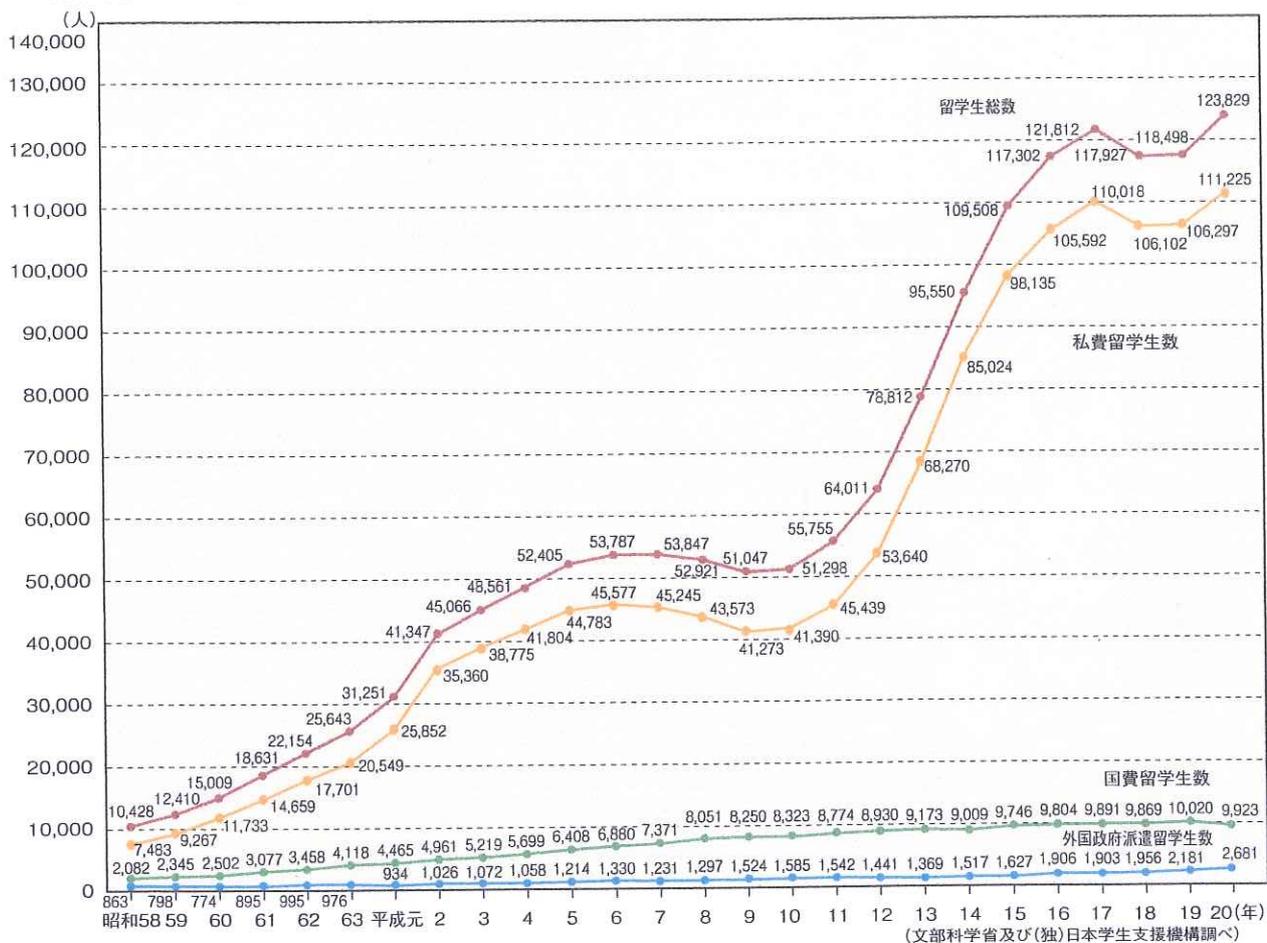
開催	交流行事名	主催	交流内容
4月	弘前公園観桜会	青森中央学院大学国際交流センター	お花見をとおして、新入生歓迎と日本人学生との交流促進
5月	留学生による中国語講座	青森中央学院大学地域社会活動委員会	留学生が講師となり、地域住民との交流
	仙北市立中川小学校校修学旅行	仙北市立中川小学校 (参加：青森中央学院大学)	児童と交流し、青森を紹介
	留学生全体ガイダンス	青森中央学院大学国際交流センター	今年度の国際交流・サポート体制の説明と青森警察署による講演
	春季新入生対象新入生特別ガイダンス	青森中央学院大学国際交流センター	留学生生活の説明と指導
	中国語教室	五所川原市中央公民館みんなの教室 (参加：青森中央学院大学)	中国人留学生が講師として中国語を紹介
6月	学生会館合同避難訓練・新入生歓迎会	青森中央学院大学学生会館自治会	避難訓練と新入生の歓迎と交流促進
	青森市立造道小学校でゲストティーチャー	青森市立造道小学校 (参加：青森中央学院大学)	総合学習時間に留学生が母国について紹介
	青森中央高等学校でゲストティーチャー(1回目)	青森中央高等学校 (参加：青森中央学院大学)	総合学習時間に留学生が母国について紹介
	FSA新入生歓迎会	青森中央学院大学FSAサークル	留学生、教職員、地域住民参加型の新入生歓迎パーティー
	留学生によるベトナム語講座	青森中央学院大学地域社会活動委員会	留学生が講師となり、地域住民との交流
7月	留学生人材活用推進事業開始	青森県観光国際戦略局国際経済課 (参加：青森中央学院大学)	産学官連携による本県と海外との架け橋役となる人財の育成
	青森中央高等学校でゲストティーチャー(2回目)	青森中央高等学校 (参加：青森中央学院大学)	総合学習時間に留学生が母国について紹介
	留学生就職ガイダンス	青森中央学院大学キャリア支援委員会	留学生への就職指導
	FSA合浦公園BBQ大会	青森中央学院大学FSAサークル	留学生と日本人学生の交流
	留学生全体ガイダンス	青森中央学院大学国際交流センター	夏期休暇前の説明と指導
8月	留学生人材活用普及啓発セミナー	青森県観光国際戦略局国際経済課 (参加：青森中央学院大学)	産学官連携による本県と海外との架け橋役となる人財の育成
	大学院進学相談会	青森中央学院大学大学院研究科委員会	留学生への大学院進学指導
	青森ねぶた祭り	青森ねぶた祭り実行委員会 (参加：青森中央学院大学)	代表的な夏祭りへ留学生が参加し、青森の理解を深める
	留学生人材活用推進事業県内企業見学会	青森県観光国際戦略局国際経済課 (参加：青森中央学院大学)	産学官連携による本県と海外との架け橋役となる人財の育成
	2011ジュニアグローバルトレーニングスクールin AOMORI	NPO法人ジュニアグローバルトレーニングスクール (参加：青森中央学院大学)	青森・アメリカ・韓国の小学生対象の国際交流サマースクールに通訳・運営ボランティアとして参加
9月	出来島老人クラブ西瓜・メロン交流会	青森中央学院大学異文化交流会サークル	青森の歴史と特産物を知り、異文化を学ぶ
	第18回青森県留学生交流ジャンボリー	青森県留学生交流推進協議会 (参加：青森中央学院大学)	留学生相互並びに国際交流関係者との交流促進と県内の文化等を紹介
	台湾・上順旅「青森農業体験」ツアー	アジアからの観光客誘致推進協議会 (参加：青森中央学院大学)	台湾との交流促進及び通訳として参加
	青森りんご台湾キャンペーン	社団法人青森県りんご対策協議会 (参加：青森中央学院大学)	ミスりんごへの台湾語研修
	十和田市道の駅「とわだびあ」10周年記念イベント	青森中央学院大学国際交流センター	留学生の母国の模擬店出店
10月	秋季学位授与式・卒業祝賀会	青森中央学院大学	9月卒業の留学生の授与式・祝賀会
	翔麗祭(学園祭)	青森中央学院大学学生会	教職員・学生と地域との交流。留学生による母国の模擬店出店等
	第9回日本語スピーチコンテスト	青森中央学院大学国際交流センター	留学生参加のスピーチコンテスト
	青森中央文化専門学校コスチュームショー	青森中央文化専門学校 (参加：青森中央学院大学)	専門学校生との共同作業による交流
	台湾マスコミ招聘事業	社団法人青森県りんご対策協議会 (参加：青森中央学院大学)	ミスりんごへの台湾語研修
11月	フライトキャンパス「フレンドリーウィンドウ」オープニングセレモニー	青森中央学院大学	地域との交流拠点及び留学生等による情報発信
	青森サポーター事業	青森中央学院大学	青森サポーター事業の一環として、青森の林業を学び、交流する
	青森県フォレストフェスタ2011 in 梵珠山参加・試験研究PR館の見学	青森中央学院大学 あおもりくらしの総合研究所	青森サポーター事業の一環として、青森の農・漁業を学び、交流する
	ベトナム・フェア(フレンドリーウィンドウ)	青森中央学院大学	地域へのベトナム紹介と交流
	秋季新入生対象新入生特別ガイダンス	青森中央学院大学国際交流センター	留学生生活の説明と指導
	FSA茶道体験	青森中央学院大学FSAサークル	日本文化の体験
	外国語科日本文化紹介発表会	青森南高等学校 (参加：青森中央学院大学)	高校生のアメリカ語学研修の発表内容への助言と交流
	タイ・チェンマイの高校訪問団受入事業	青森中央学院大学	相互交流と青森県のPR
	青森サポーター事業	青森中央学院大学	青森サポーター事業の一環として、青森の農・漁業を学び、交流する
	農・漁業現地体験研修(青森県の農業と魚・風土とくらし)	青森中央学院大学 あおもりくらしの総合研究所	青森サポーター事業の一環として、青森の農・漁業を学び、交流する
12月	留学生によるタイ語講座	青森中央学院大学地域社会活動委員会	留学生が講師となり、地域住民との交流
	秋季新入生歓迎	青森中央学院大学国際交流センター	秋季新入生歓迎と日本人学生との交流促進
	紅葉狩りと乗馬体験	青森中央学院大学	青森サポーター事業の一環として、青森の農業を学び、交流する
	青森サポーター事業	青森中央学院大学 あおもりくらしの総合研究所	青森サポーター事業の一環として、青森の農業を学び、交流する
	りんごの収穫体験と郷土のりんご料理	青森中央学院大学 あおもりくらしの総合研究所	青森サポーター事業の一環として、青森の農業を学び、交流する
11月	タイ・フェア(フレンドリーウィンドウ)	青森中央学院大学	地域へのタイ紹介と交流
	留学生によるマレー語講座	青森中央学院大学地域社会活動委員会	留学生が講師となり、地域住民との交流
	外国人日本語スピーチコンテスト	青森市国際交流ボランティア協会(AIVA) (参加：青森中央学院大学)	スピーチコンテストへの参加
	国際交流会館 学術交流会館合同スポーツ大会	青森中央学院大学学生会館自治会	寮生同士の交流大会(日本人寮生と留学生寮生の交流)
	国際理解セミナー	青森西高校人文科 (参加：青森中央学院大学)	英語で母国料理の紹介と交流
12月	留学生による韓国語講座	青森中央学院大学地域社会活動委員会	留学生が講師となり、地域住民との交流
	青森中央文化専門学校「Bunka Fashion Live 2011」	青森中央文化専門学校 (参加：青森中央学院大学)	専門学校生との共同作業による交流
	国際交流クリスマスパーティー	青森中央学院大学FSAサークル	留学生、教職員、地域住民参加型のクリスマスパーティー
1月	青森サポーター事業修了式 国際語学サポートセンター 活動報告会・合同懇親会	青森中央学院大学 あおもりくらしの総合研究所	青森サポーター事業に参加した留学生への認定証交付など。
2月	台湾・高雄市立陽明国民中学修学旅行生受入	アジアからの観光客誘致推進協議会 (参加：青森中央学院大学)	台湾との交流促進及び通訳として参加
3月	国際交流会館・学術交流会館合同お別れ会 学位授与式・卒業祝賀会	青森中央学院大学学生会館自治会	退寮予定者の送別会 3月卒業の留学生の授与式・祝賀会

我が国の大学等で学ぶ留学生は、平成20年5月1日現在123,829人で、平成19年に比べ5,331人(4.5%)増加した。これを出身地域別に見ると、我が国の地理的、文化的状況もあり、アジア地域からの留学生が全体の約9割を占めている。

また、我が国の日本語教育機関で学ぶ学生は、平成20年7月1日現在34,937人で、平成19年に比べ3,274人(10.3%)増加した。出身地域では、中国、韓国及び台湾からの学生が全体の約8割以上を占めている。

1 留学生数の推移

■大学・専門学校等の在籍者数(各年5月1日現在)



注) ここでいう大学・専門学校等の在籍者とは、我が国の大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程において教育を受ける外国人学生で、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格により在留する者をいう。

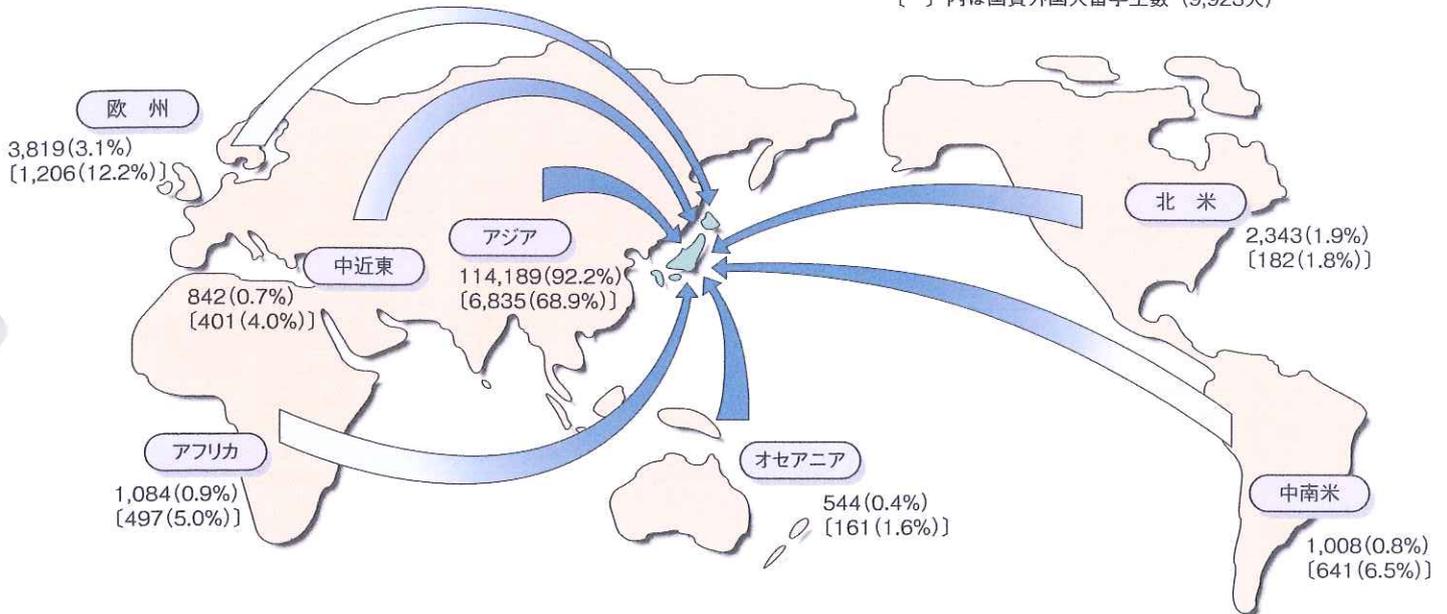
■日本語教育機関の在籍者数(各年7月1日現在)



注) ここでいう日本語教育機関の在籍者とは、(財)日本語教育振興協会により審査・認定された日本語教育機関で学ぶ外国人学生をいう。

2 出身地域別留学生数 ※大学・専門学校等の在籍者に限る (平成20年5月1日現在)

総数：123,829人
〔 〕内は国費外国人留学生数 (9,923人)



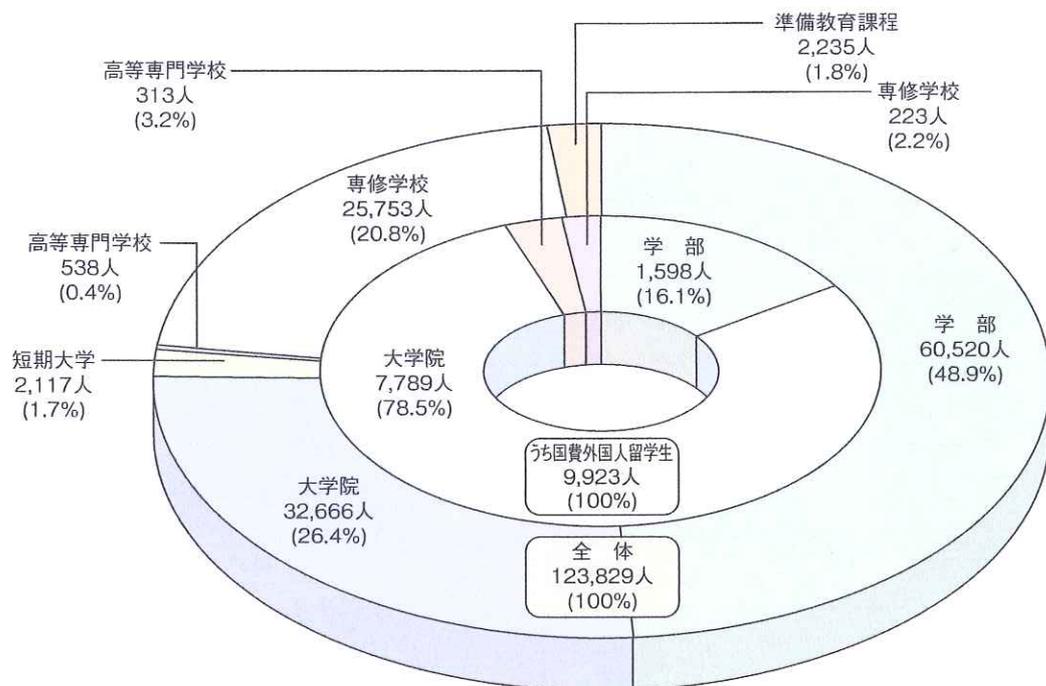
3 出身国・地域別留学生数 ※大学・専門学校等の在籍者に限る (平成20年5月1日現在)

国・地域名	留学生数 (人)	構成比
中国	72,766 (1,794)	58.8% (18.1%)
韓国	18,862 (930)	15.2% (9.4%)
台湾	5,082 (0)	4.1% (0.0%)
ベトナム	2,873 (574)	2.3% (5.8%)
マレーシア	2,271 (238)	1.8% (2.4%)
タイ	2,203 (564)	1.8% (5.7%)
アメリカ合衆国	2,024 (127)	1.6% (1.3%)
インドネシア	1,791 (690)	1.4% (7.0%)
バングラデシュ	1,686 (466)	1.4% (4.7%)
ネパール	1,476 (123)	1.2% (1.2%)
その他	12,795 (4,417)	10.3% (44.5%)
計	123,829 (9,923)	100.0% (100.0%)

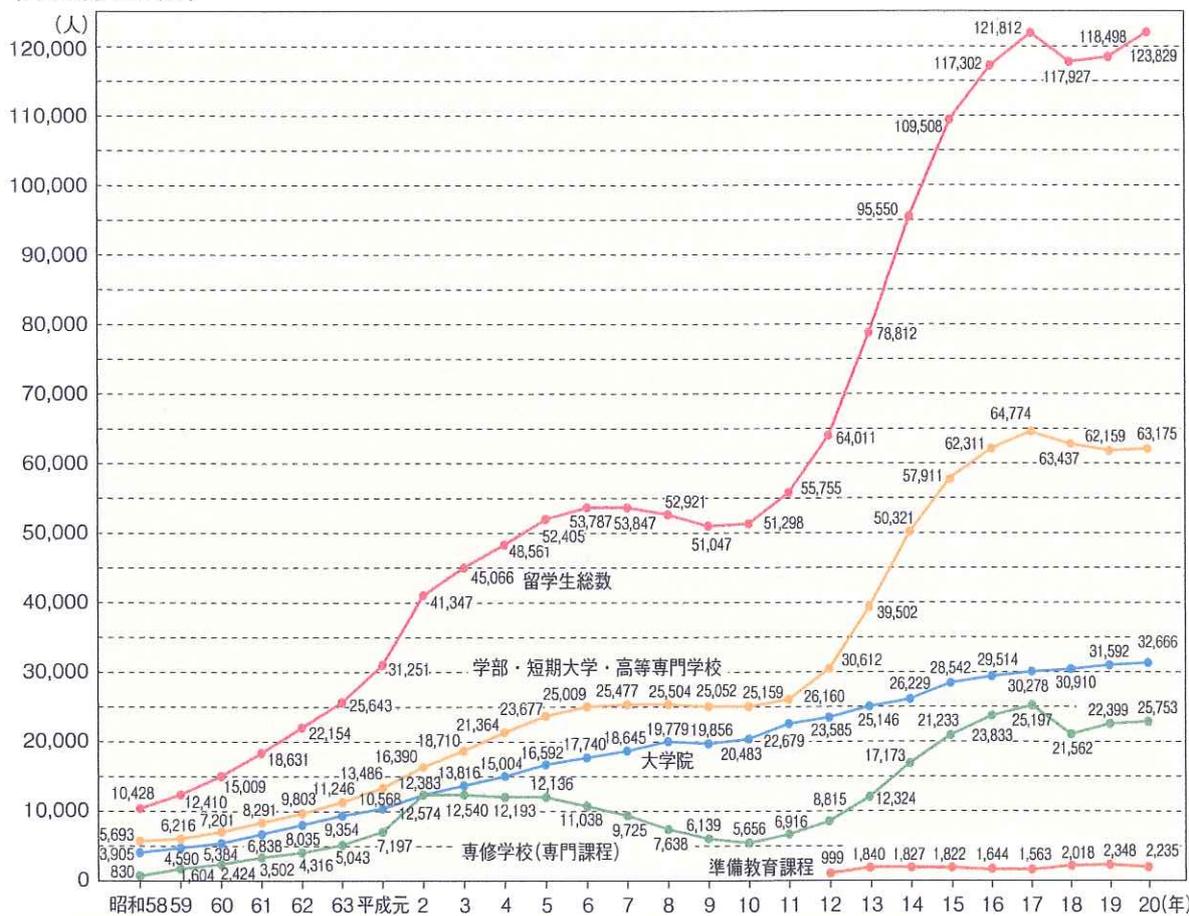
() は国費外国人留学生数で内数

4 在学段階別留学生数 ※大学・専門学校等の在籍者に限る

(平成20年5月1日現在)



(各年5月1日現在)



注) 準備教育課程とは、外国において中等教育の修了に12年を要しない国の学生について、文部科学大臣が指定した当該課程を修了した場合に、大学入学資格を与えることができる課程をいう (P19参照)

青森県内高等教育機関における外国人留学生在籍状況

1 国費・私費別外国人留学生数(高等教育機関)

(平成23年10月1日現在)

機関名	弘前大学	青森大学	八戸工業大学	北里大学獣医学部	八戸工業高等専門学校	青森公立大学	青森中央学院大学	青森短期大学	合計
経費区分									
国費	9	0	0	0	5	0	0	0	14
私費	外国政府派遣	8	0	0	0	4	0	0	12
	上記以外	117	77	4	2	0	6	119	2
計	134	77	4	2	9	6	119	2	353

2 国別外国人留学生数

(平成23年10月1日現在)

機関名	弘前大学	青森大学	八戸工業大学	北里大学獣医学部	八戸工業高等専門学校	青森公立大学	青森中央学院大学	青森短期大学	合計
国籍									
中華人民共和国	72	75	4	0	0	1	51	1	204
台湾	1	0	0	0	0	0	5	1	7
香港	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大韓民国	15	2	0	0	0	5	4	0	26
モンゴル	4	0	0	0	2	0	0	0	6
ネパール	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ベトナム	0	0	0	0	1	0	22	0	23
フィリピン	1	0	0	0	0	0	0	0	1
タイ	6	0	0	2	0	0	13	0	21
マレーシア	7	0	0	0	4	0	24	0	35
ミャンマー	0	0	0	0	0	0	0	0	0
インドネシア	4	0	0	0	2	0	0	0	6
バングラデシュ	4	0	0	0	0	0	0	0	4
スリランカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アメリカ合衆国	2	0	0	0	0	0	0	0	2
カナダ	2	0	0	0	0	0	0	0	2
ニュージーランド	3	0	0	0	0	0	0	0	3
フランス	5	0	0	0	0	0	0	0	5
ドイツ	4	0	0	0	0	0	0	0	4
イタリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ルーマニア	2	0	0	0	0	0	0	0	2
ハンガリー	1	0	0	0	0	0	0	0	1
ケニア	1	0	0	0	0	0	0	0	1
計	134	77	4	2	9	6	119	2	353

青森県留学生交流推進協議会会議報告等

平成23年度総会・運営委員会合同会議

開催日：平成23年12月1日(木)

開催場所：弘前大学(弘前市)

協議事項：1 平成23年度事業報告について

- ・ ホームビジット・ホームステイの実施
- ・ 青森県留学生交流推進協議会だより第20号発行
- ・ 留学生事務担当者研修会実施
- ・ 第18回青森県留学生交流ジャンボリー実施
- ・ 青森県留学生交流推進協議会会報誌「あそさ」第22号発行

2 平成22年度収支決算報告について

3 平成23年度収支中間報告について

4 青森県留学生交流推進協議会の運営について

5 青森県留学生交流推進協議会の役員の選出について

6 平成24年度事業計画(案)について

- ・ ホームビジット・ホームステイの実施
- ・ 青森県留学生交流推進協議会だより第21号発行
- ・ 留学生事務担当者研修会実施
- ・ 第19回青森県留学生交流ジャンボリー実施
- ・ 青森県留学生交流推進協議会会報誌「あそさ」第23号発行

報告事項：・ 青森県における国際交流の現状・今後の方針について

- ・ 各高等教育機関・団体における留学生・国際交流の取り組みについて

平成23年度留学生連絡会議

開催日：平成23年6月6日(月)

開催場所：青森大学(青森市)

協議事項：1 平成23年度ホームビジット・ホームステイの実施について

2 平成23年度留学生事務担当者研修会の実施について

3 第18回青森県留学生交流ジャンボリーの実施について

4 推進協会報誌「あそさ」第22号の発行について

5 青森県留学生交流推進協議会「あそさ SESSION」の廃止について

6 青森県留学生交流推進協議会の運営について

平成23年度留学生事務担当者研修会

開催日：平成23年7月15日(金)

開催場所：弘前大学(弘前市)

研修内容：外国人留学生に関する入国・在留手続について

講師：矢部 博文氏(仙台入国管理局青森出張所統括審査官(所長))

青森県留学生交流推進協議会構成員・運営委員会委員名簿
(平成23年10月1日現在)

No.	機関・団体名	構 成 員		運営委員会委員		
1	高等教育機関	弘前大学	学 長	遠 藤 正 彦	国際交流センター長	大 西 純
2		青森大学	学 長	末 永 洋 一	学生部長	村 井 繁 夫
3		東北女子大学	学 長	小 澤 熹	学生課長	河 内 見 地 子
4		弘前学院大学	学 長	吉 岡 利 忠	国際交流委員長	佐 藤 和 博
5		八戸大学	学 長	中 村 覺	国際交流委員長	三 浦 文 恵
6		八戸工業大学	学 長	藤 田 成 隆	学務部長	福 士 憲 一
7		北里大学獣医学部	学 部 長	伊 藤 伸 彦	国際交流委員長	大 浪 洋 二
8		八戸工業高等専門学校	校 長	岡 田 益 男	留学生指導教員	阿 部 恵
9		青森公立大学	学 長	佐 々 木 恒 男	国際交流委員長	遠 藤 哲 哉
10		青森明の星短期大学	学 長	辻 昭 子	国際交流センター所長	福 士 洋 子
11		青森中央学院大学	学 長 代 行	石 田 憲 久	国際交流センター長	大 泉 常 長
12		青森県立保健大学	学 長	リボウイツ よし子	国際科長	尾 崎 勇
13	国・地方公共団体	法務省仙台入国管理局青森出張所	所 長	矢 部 博 文	所 長	矢 部 博 文
14		青森県	知 事	三 村 申 吾	国際経済課長	小 山 宏
15		青森県教育委員会	教 育 長	橋 本 都	学校教育課長	中 村 充
16		青森市	市 長	鹿 内 博	指導課長	三 上 雅 生
17		弘前市	市 長	葛 西 憲 之	企画課長	高 木 伸 剛
18		八戸市	市 長	小 林 眞	市民連携推進課長	野 田 祐 子
19		十和田市	市 長	小 山 田 久	観光推進課長	岡 山 新 一
20	経済団体	(社)青森県経営者協会	会 長	井 畑 明 男	専務理事	山 谷 清 人
21		青森県商工会議所連合会	会 長	林 光 男	幹 事	中 村 明 義
22		日本青年会議所東北地区青森ブロック協議会	会 長	石 橋 功 行	会 長	石 橋 功 行
23	留学生交流関係団体	国際ロータリー第2830地区	ガバナー	中 村 義 弘	米山奨学委員長	松 本 康 子
24		ライオンズクラブ国際協会332-A地区	ガバナー	小 関 力	YE委員長	清 野 一 彦
25		青森県聯合青年団	団 長	川 井 若 奈	団 長	川 井 若 奈
26		青森県地域婦人団体連合会	会 長	向 井 麗 子	副 会 長	長 内 幸 子
27		日本国際連合協会青森県本部	本 部 長	(欠 員)	理 事 長	工 藤 政 宣
28		(社)青森県ユネスコ協会	会 長	脇 川 利 勝	理 事 長	塩 谷 彰 宏
29		(財)オイスカ産業開発協力団	代 表	中 村 亨 三	事 務 局 長	若 杉 保 直
30		(財)青森県国際交流協会	会 長	塩 越 隆 雄	事 務 局 長	東 和 生
31		(独)日本学生支援機構東北支部	支 部 長	鈴 木 研 一	支 部 長	鈴 木 研 一

青森県留学生交流推進協議会要項

- (目的)
- 第1条 青森県内における留学生の円滑な受入れを促進し、また、地域住民との交流を通じて相互の国際理解を深めるため、青森県留学生交流推進協議会（以下「推進協議会」という。）を置く。
- (定義)
- 第2条 この要項において「留学生」とは、青森県内の高等教育機関又は学術研究機関において特定の研究を行い、又は教育を受ける目的で滞在する者をいう。
- (事業)
- 第3条 推進協議会は、本会の目的を達成するため、主として次の事業を行う。
- (1) 留学生に関する情報交換
 - (2) 留学生受入れに当たっての協力体制の充実（宿舍、奨学金、子女教育等）
 - (3) 留学生と地域住民との交流の活性化
 - (4) その他他の目的を達成するために必要な事項
- (構成)
- 第4条 推進協議会は、県内に所在する次に掲げる者をもって構成する。
- (1) 高等教育機関の長
 - (2) 国及び地方公共団体等の長
 - (3) 経済団体及び留学生交流関係団体の代表者
 - (4) 学識経験者
- (役員)
- 第5条 推進協議会に、次の役員を置く。
- (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 2名
 - (3) 監事 2名
- 2 会長は、推進協議会の議により互選するものとし、任期を2年とし、再任を妨げない。
- 3 副会長及び監事は、推進協議会の議により互選するものとし、任期を2年とし、再任を妨げない。
- (役員職務)
- 第6条 会長は、推進協議会を招集し、その議長となる。
- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は欠けたときは、会長の職務を代行する。
- 3 監事は、推進協議会運営費の監査に当たり、監事に関し必要な事項は、別に定める。
- (構成員以外の出席)
- 第7条 会長が必要と認めるときは、構成員以外の者を会議に出席させることができる。
- (運営委員会)
- 第8条 推進協議会の円滑な運営を図るため、青森県留学生交流推進協議会運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
- 2 運営委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。
- (賛助会員)
- 第9条 推進協議会の事業目的達成を支援するため、青森県留学生交流推進協議会賛助会員（以下「賛助会員」という。）を置く。
- 2 賛助会員に関し必要な事項は、別に定める。
- (事務)
- 第10条 推進協議会の事務は、会長所属機関において行う。
- (雑則)
- 第11条 この要項に定めるもののほか、推進協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則
この要項は、平成2年1月26日から施行する。

附 則
この要項は、平成3年3月27日から施行する。

附 則
この要項は、平成11年1月21日から施行する。

附 則
この要項は、平成11年9月21日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

附 則
この要項は、平成15年11月25日から施行し、平成15年4月1日から適用する。

附 則
この要項は、平成20年4月1日から施行する。

青森県留学生交流推進協議会申合せ事項

最終改正：平成20年11月18日

1 推進協議会の構成及び開催について

(1) 推進協議会の構成員は、次の団体等の長又は代表者とする。

一 高等教育機関	弘前大学、青森大学、東北女子大学、弘前学院大学、八戸大学、八戸工業大学、北里大学獣医学部、八戸工業高等専門学校、青森公立大学、青森明の星短期大学、青森中央学院大学、青森県立保健大学
二 国の機関	法務省仙台入国管理局青森出張所
三 地方公共団体	青森県、青森県教育委員会、青森市、弘前市、八戸市、十和田市
四 経済団体	(社)青森県経営者協会、青森県商工会議所連合会、日本青年会議所東北地区青森ブロック協議会
五 留学生交流関係団体	国際ロータリー第2830地区、ライオンズクラブ国際協会332-A地区、青森県連合青年団、青森県地域婦人団体連合会、日本国際連合協会青森県本部、(社)青森県ユネスコ協会、(財)オイスカ産業開発協力団オイスカ活動青森県推進協力会、(財)青森県国際交流協会、(独)日本学生支援機構東北支部

- (2) 新たな構成員の加入については、会長は総会に諮り了承を得るものとする。
(3) 推進協議会（総会）は、年1～2回開催し、具体的な事項は運営委員会に委ねるものとする。
(4) 運営委員会は、推進協議会の目的に沿って具体的事項について検討するため、適宜開催するものとする。
(5) 監事は、会長及び副会長所属機関以外の機関の運営委員をもって充て、会長所属機関作成の年度ごとの収支決算報告書を監査し、総会に報告するものとする。

2 運営委員会について

- (1) 運営委員は、推進協議会の構成員の属する団体等が推薦する者について、会長が委嘱する。
(2) 運営委員会の委員長は、会長所属機関の運営委員をもって充てる。
(3) 運営委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
(4) 運営委員会は、推進協議会の目的に沿って具体的事項について検討するため、適宜開催するものとする。
(5) 留学生の受入れ側である高等教育機関の留学生受入れ等に関する情報交換を図るため、運営委員会の下に、留学生連絡会議（以下「連絡会議」という。）を置く。
なお、連絡会議の運営については、別に定める。

3 賛助会員について

- (1) 賛助会員は、構成員が推薦する機関・団体について、会長が委嘱する。
(2) 賛助会員は、推進協議会の事業目的達成を支援するものとする。